

R4年度大野市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

大野市の農業は、豊かな農地や水資源、寒暖差の大きな気候など、恵まれた自然環境に裏付けされた良質米や質の高い園芸作物を作り出している。良食味米の産地であることから種粳や酒米「五百万石」「さかほまれ」の産地として広く知られている。また、特産作物であるサトイモは全国的にも有名であり、中でも「上庄さといも」は国の地理的表示（GI）に登録されたブランド農産物である。

作付体系は、担い手や集落営農は水稻を中心とした大麦あとソバや大豆の転作作物を組み合わせた、2年3作の体系が基本となっており、その他、地域の実情に合わせ、サトイモやネギ、ナスなどの園芸作物を取り入れた複合経営となっている。

また、市内道の駅や農林水産物直売所などへの出荷に取組む直売活動も盛んで、季節に応じて様々な種類の野菜や花卉などの、少量多品目栽培に取り組む経営体もある。

しかしながら、作付けの中心は主食用米となっており、近年、気候変動による米の品質の低下や、新型コロナウイルス感染拡大による需要減少による米価下落が本市の農業経営にも大きな影響を与えている。

さらには、高齢化や人口減少による人材不足や有害鳥獣の被害により、中山間地域や小区画農地などの採算性の低い農地を中心に、不作付地や耕作放棄地の増加が懸念されている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

多様な担い手が活躍し「儲かる農業」の実現を目指し、担い手や集落営農においては高品質・良食味米生産への取組みを基本としつつ、加工用米や飼料用米、サトイモやネギなどの特産作物、野菜や花卉、果樹など園芸作物の導入を推進し農業経営の複合化を図り農家所得の向上を目指す。また、転作作物の中心となる、大麦、ソバ、大豆の生産性向上や高品質化に向けた取組みを推進し経営の安定化を図る。

小規模農家においては、特産作物をはじめとする園芸作物の生産を推進し、JAや市内道の駅、農林水産物直売所への出荷を促進し収益力の向上を図る。

また、スマート農業の導入を推進し作業の効率化や省力化などを図るほか、自然環境に配慮した環境調和型農業を推進し、農産物の付加価値の向上を図るなど、収益力の向上に努める。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

引き続き、担い手や集落営農への農地の集積、集約化をすすめ、ブロックローテーションによる水稻、大麦あとソバ、大豆の2年3作の作付体系を維持しながら、適地適作、地域の実情に応じた転作作物の導入を推進し水田の有効利用を図る。

また、地域の効率的土地利用に配慮しつつ、現地確認で水田の利用状況を確認し、地域の実情に合わせた畑地化をすすめ水田の有効利用を図る。

4 作物ごとの取組方針等

（1）主食用米

生産数量の目安に沿った作付面積を確保するとともに、コシヒカリを中心に高品質米の生産に向けて生産技術の向上を図り、需要動向や集荷業者の意向を勘案

しながら米の生産振興を推進する。

また、高品質な主食用米の新品種の作付け拡大など、米のブランド化を目指し産地として地位を確保する。

(2) 備蓄米

調整水田や不作付地の解消、また畑作物の作付けが不向きな水田を活用し、一定の生産を確保していく。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

需要に応じた生産促進と農家所得の確保に向け、関係団体等とともに栽培・肥培管理など多収穫技術を検討し、安定した生産を目指す。

イ 米粉用米

用途別基準設定により、米粉の利用を促進し生産を維持する。

ウ 新市場開拓用米

大規模農業法人において、国外の新市場開拓用の米の生産を推進していく。

エ WCS 用稲

省力・低コスト化のために、市内の畜産農家と連携を図り耕畜連携による堆肥の活用を積極的に導入し、水田の有効利用を図る。

オ 加工用米

実需業者との結び付きを強化しながら生産を確保し、調整水田や不作付地の解消につなげる。

(4) 麦、大豆、飼料作物

転作作物の主軸として作付けを推進する。また、圃場の排水対策強化、麦＋大豆の輪作体系による品質向上を図る。

(5) そば、なたね

市を代表するブランド作物であるソバについて麦の後作として作付けを推進する。また、ほ場の排水対策を徹底し、収量、品質向上に努める。

(6) 地力増進作物

間作・後作緑肥の導入による有機物の補給や、計画的なローテーションの実施により地力増進や連作障害の回避、生産向上を図る。

(7) 高収益作物

地域特産物の作付けを推進し、団地化と生産組織の育成に努め生産の維持及び拡大を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等 ～ 8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	2,430	0	2,352	0	2,210	0
備蓄米	25	0	99	0	126	0
飼料用米	77	0	80	0	127	0
米粉用米	1	0	1	0	2	0
新市場開拓用米	41	0	42	0	43	0
WCS用稲	17	0	17	0	12	0
加工用米	99	0	109	0	110	0
麦	740	0	785	0	790	0
大豆	98	82	96	82	98	83
飼料作物	22	6	22	6	45	6
・子実用とうもろこし	0	0	0	0	0	0
そば	700	629	696	627	700	650
なたね	0	0	0	0	0	0
地力増進作物	2	2	2	0	6	0
高収益作物	126	6	126	6	126	6
・野菜	112	6	112	6	112	6
・花き・花木	9	0	9	0	9	0
・果樹	5	0	5	0	5	0
・その他の高収益作物	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
・〇〇	0	0	0	0	0	0
畑地化	0	0	0	0	0	0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	里芋	特産作物作付助成	作付面積	(R3年度) 6675 a	(R5年度) 6677 a
2	里芋	特産作物拡大助成	作付拡大	704 a	706 a
3	菊、ナス、 穴馬スイートコーン	特産作物作付助成	作付面積	菊 862a・ナス 173a 穴馬スイートコーン 144a	菊 864a・ナス 175a 穴馬スイートコーン 146a
4	穴馬スイートコーン	特産作物拡大助成	作付拡大	2a	5a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:

協議会名:大野市農業再生協議会

新様式(公表用)

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	特産作物作付助成(里芋)	1	13,700	里 芋	作付面積に応じて支援
1	特産作物作付助成(里芋)(二毛作)	2	13,700	里 芋	作付面積に応じて支援
2	特産作物拡大助成(里芋)	1	14,000	里 芋	過去2年と比較してどちらか大きいほうの面積に比べ、拡大した面積に対して助成
2	特産作物拡大助成(里芋)(二毛作)	2	14,000	里 芋	過去2年と比較してどちらか大きいほうの面積に比べ、拡大した面積に対して助成
3	特産作物作付助成(菊)	1	5,700	菊	作付面積に応じて支援
3	特産作物作付助成(菊)(二毛作)	2	5,700	菊	作付面積に応じて支援
3	特産作物作付助成(ナス)	1	5,700	ナ ス	作付面積に応じて支援
3	特産作物作付助成(ナス)(二毛作)	2	5,700	ナ ス	作付面積に応じて支援
3	特産作物作付助成(穴馬スイートコーン)	1	40,000	穴馬スイートコーン	作付面積に応じて支援
3	特産作物作付助成(穴馬スイートコーン)(二毛作)	2	40,000	穴馬スイートコーン	作付面積に応じて支援
4	特産作物拡大助成(穴馬スイートコーン)	1	14,000	穴馬スイートコーン	過去2年と比較してどちらか大きいほうの面積に比べ、拡大した面積に対して助成
4	特産作物拡大助成(穴馬スイートコーン)(二毛作)	2	14,000	穴馬スイートコーン	過去2年と比較してどちらか大きいほうの面積に比べ、拡大した面積に対して助成

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。